

いると思います。二〇〇二年にワールドカップが開かれます。日本と韓国は、ワールドカップにむけてもっと仲が良くなるように願っています。

韓国の人たちとの出会い

明倫小学校 六年 山中千紘

「アンニョハセヨ」

このたった一言で心と心が通じ合うなんてすばらしい。

街を歩いていると韓国の人と目が合い、にっこりと笑って

れた時、日本と韓国の間、昔暗い過去があったなんて忘れていて、私はさすががささいでいいだった。

交流会では、すぐに私の所に来て笑顔で、話かけてくれたり名刺をわたしてくれたりもした。

「韓国の人たちって、なんて積極的で明るいんだろう。」

言葉はおたがい通じ合わないけれど心はちゃんと通じ合えた。

私ももっと、韓国と日本につながりがあればと思っています。

韓国を体験して

三隅中学校 三年 秋本理恵

一番印象深かったのは、私達を歓迎するためにダンスや合唱

をしてくれた少年少女の交流会でした。私は、恥ずかしさが先

に立って日本で習った踊りも十分に表現できなかったのですが、

韓国の人はどんな時も笑顔を絶やさずはつらつとしていました。

そして、この交流会で、言葉は通じなくても笑顔があれば心が通じることが分かりました。

今回の貴重な体験ができたことで、自分の世界をもっと広く持つこと、学校の勉強だけでなく、いろいろな本や人に出会って自分を高め、自分をみつめなおすように努力したいと思っています。

言葉のハンデを乗り越えて

三隅中学校 三年 斉藤由佳

初めて韓国の景色を見た時、日本と景色は何一つ変わらない

と思いました。でも日本と大きく違うのが言葉です。言葉は、

自分の思いを相手に伝えるとても大切な役割をします。韓国の友人とそれができない私は行動

で示すしかありませんでした。

日韓友好の「少年少女交流会」での名刺交換の時の事です。やはり言葉が大きな壁となりました。でもその中で一人の少女と

写真を撮るなどのコミュニケーション

ションをとる事ができたのは私にとってとてもうれしい事でした。ふれ合いをもとうという気持ちさえあれば言葉は通じなくても、心は通じると思っています。

二十一世紀に向けて

三隅中学校 三年 新町寿和

『少年少女交流会』では、すごい歓迎を受けた。名刺交換では、韓国の子供たちから積極的

に交換を申しこまれた。その時、何だか恥ずかしくてうれしくて、

それでいて幸せな感じがして、心の中に何か得られたものがあった。世界は一つなんだ。そして、その中で生きている僕達も一つになれたらいいと思う。

国同士は、時には緊張したり、文化的な面や考え方などの違いから誤解があったりするが、僕達のような若者が、親善大使となつて各国との交流を今以上に

深め、みんなが望む明るい未来を築いていきたいと思う。

日韓友好のかけ橋に

三隅中学校 三年 西村真一

この研修旅行で最も印象に残った行事は交流会だ。

言葉は通じないが、韓国の少年少女の踊りなどの出し物は心

がこもっていて、すばらしいものだった。僕たちもそれに応えられるよう一生懸命にやっただけで、韓国の方々に喜んでもら

たと思う。

言葉は通じなくても心のこもった態度があれば、いくらでも言葉の壁を乗り越えられるとわかった。

これからもあるこの旅が日韓友好の架け橋になれば、本当にうれしい。



「TYS少年の船」に参加して

三隅中学校 三年 村田正彦

釜山に着いて、まず思ったことは、韓国が思ったより日本に似ていたということです。韓国の

の人々と日本人の表情や町中の建物や風景などはたいへん似て

いたと思います。ですが、やはり、文字や言葉は違いました。

バスの中から観光をしている時

いろいろなハンゲル文字は、意味がわからない記号のように見

えました。しかし、言葉が通じなくても、心が通じ合えば、お

互い理解し合えるような気がします。「近くて遠い国」韓国。

日本と韓国が、今以上に深い友好を結ぶことができれば、良いと思います。